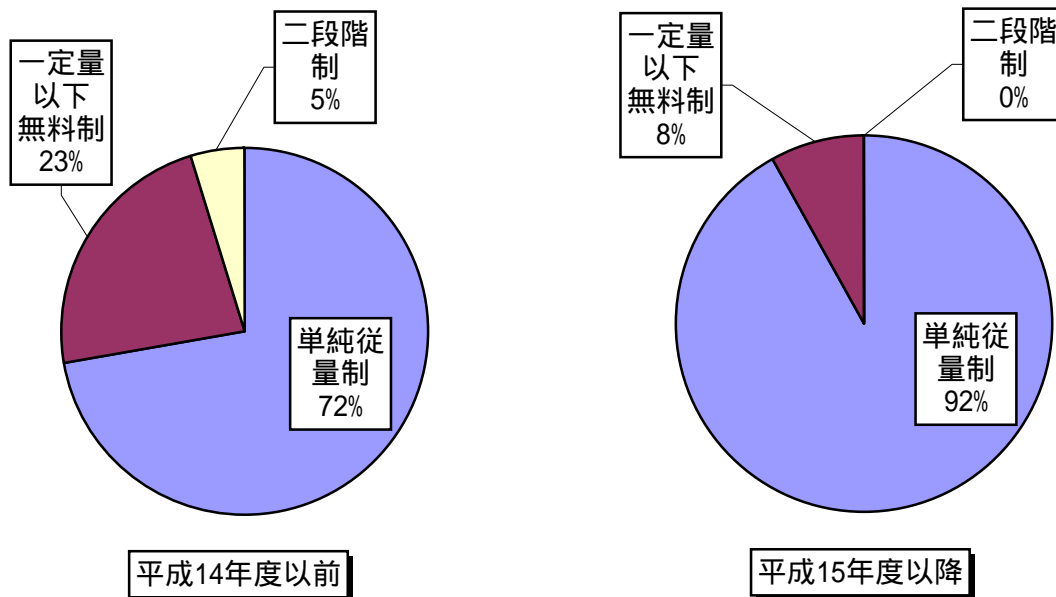


1. 家庭ごみ等有料化実施自治体の手数料負担方法

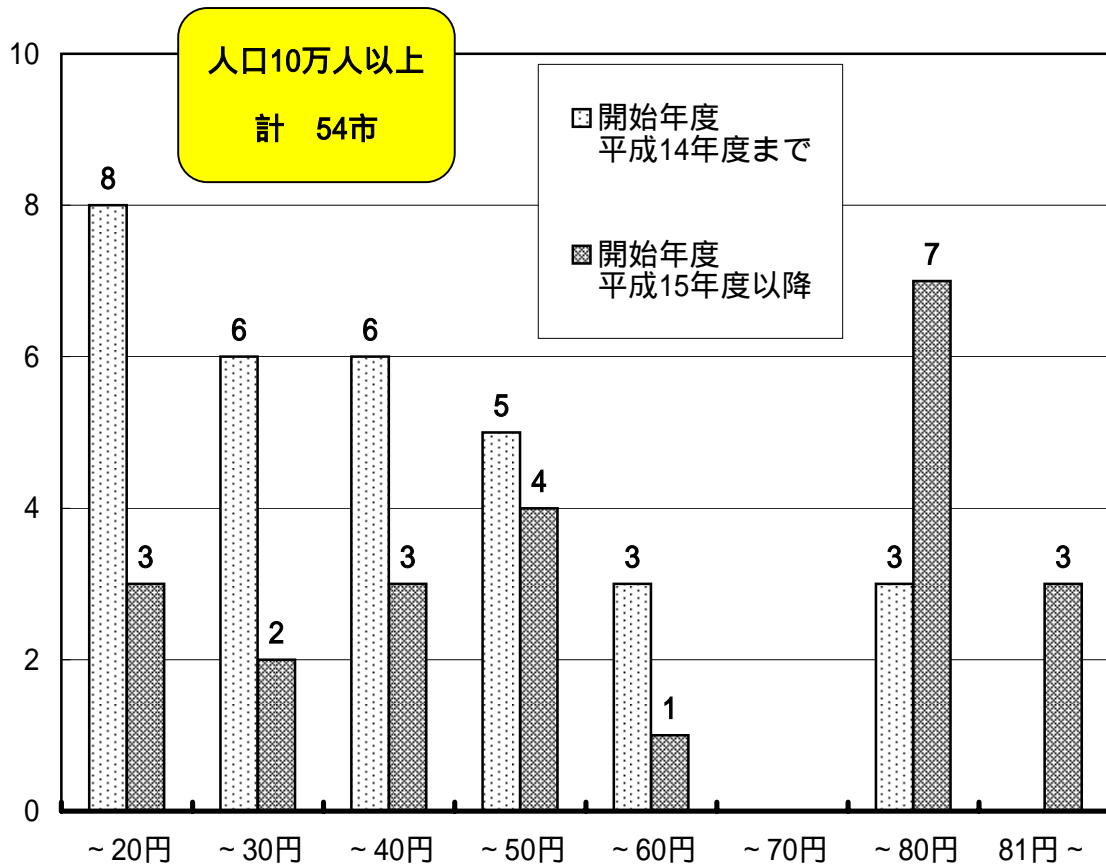
都市規模	有料化実施年度	単純従量制	一定量以下無料制	二段階制	計
人口 10万人以上	平成14年度以前	31 [72.1%]	10 [23.3%]	2 [4.7%]	43 [100%]
	平成15年度以降	23 [92.0%]	2 [8.0%]	0 [0.0%]	25 [100%]
	小計	54 [79.4%]	12 [17.6%]	2 [2.9%]	68 [100%]

「家庭ごみ有料化の現状と課題（東洋大学経済学部教授 山谷 修作，「生活と環境 平成18年1月号」）及び平成17年度国勢調査（速報）による人口をもとに，環境局総務課にて集計

人口10万人以上の都市における負担方法の割合



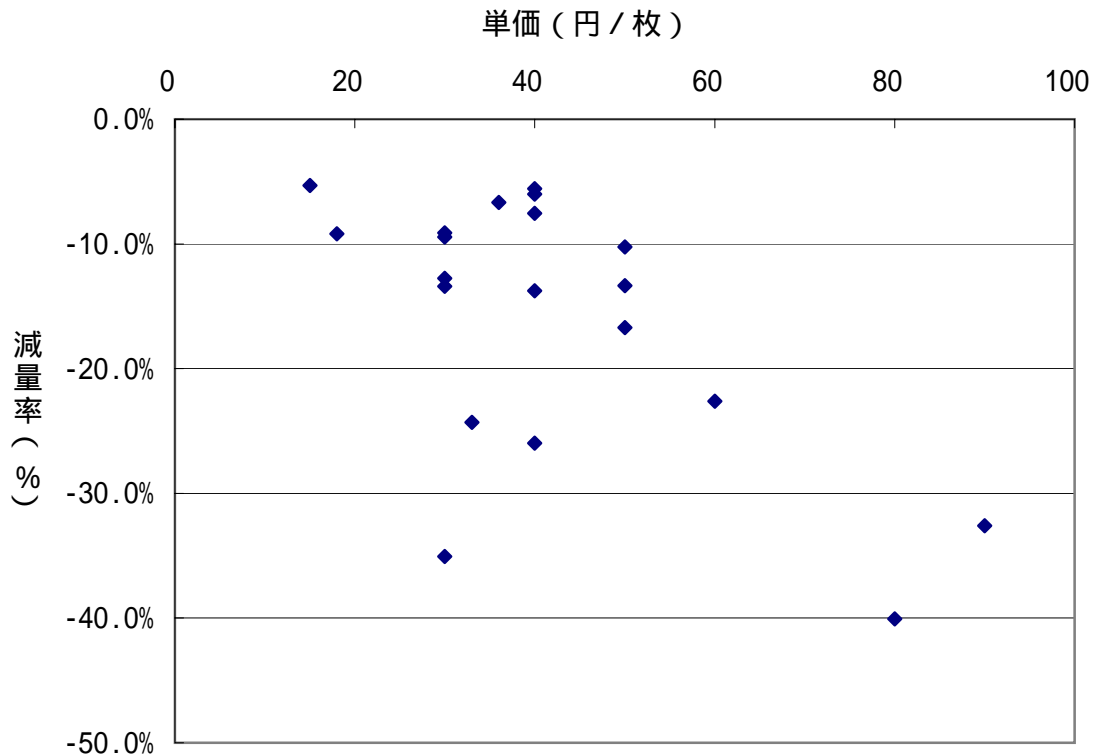
2. 家庭ごみ等有料化の手数料水準と実施年度
 (人口10万人以上の都市, 単純従量制のみ)



「家庭ごみ有料化の現状と課題 (東洋大学経済学部教授 山谷 修作, 「生活と環境 平成18年1月号」) 及び平成17年度国勢調査 (速報) による人口をもとに, 環境局総務課にて集計

3. ごみ処理費用負担額に係る調査

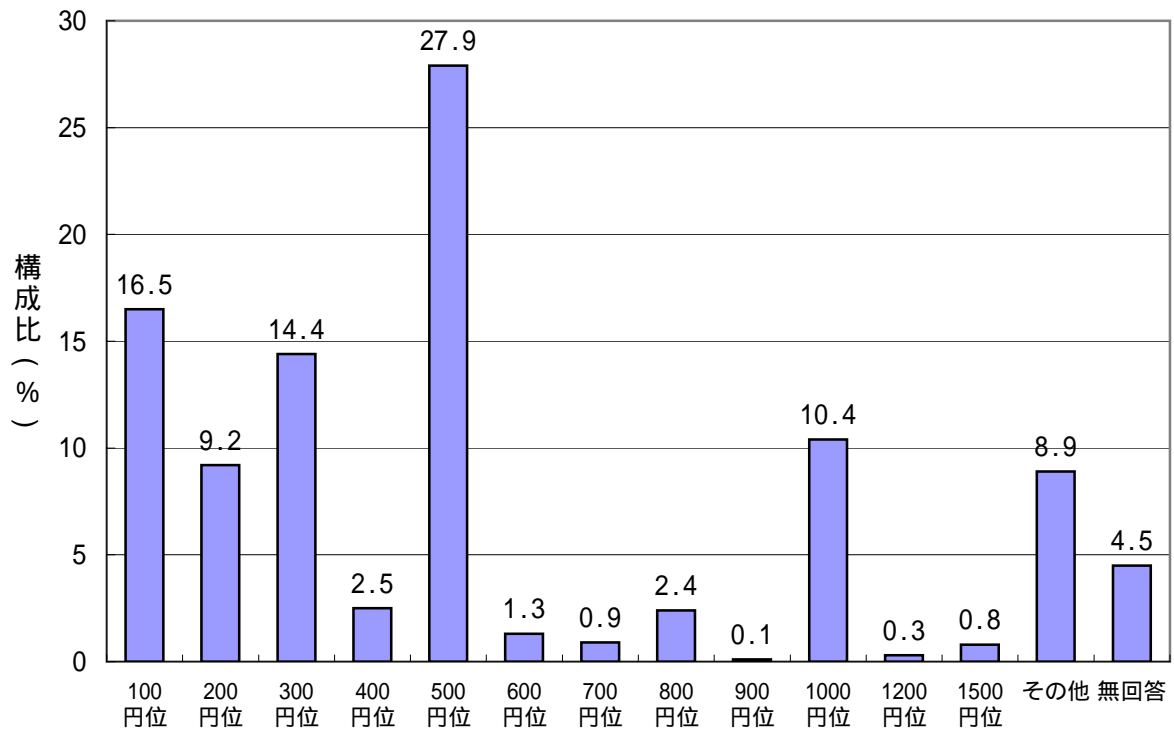
(1) 大袋1枚当たりの手数料と減量率



(社) 地方行財政調査会資料，環境省調査等をもとに，データが確認できる20都市について，環境局総務課にてとりまとめた。

原則として，単純従量制，ステーション回収による有料化実施市町村の，「実施1年前」及び「実施1年後」の有料化対象ごみの増減を調査したもの。

(2) 経済的に負担しても良いと思う一世帯1ヶ月当たりの負担額



「ごみ有料化とごみ減量・リサイクルに関するアンケート調査報告書」(藤沢市, 平成17年7月)より抜粋

有効回答数 : 7,890世帯

4. ごみ袋1袋当たりの処理費用推計(1)

品目	総原価 (千円)	処理量 (トン)	1 t 当たり 処理原価 (円)	大袋1袋当たり 処理原価(2) (円)
家庭ごみ	4,946,694	220,303	22,454	135 〔9〕(3)
プラスチック製 容器包装	852,333	13,652	62,433	62 〔9〕(3)

- 1 処理原価は、平成16年度実績をベースとしたもの。平成17年度は、松森工場の稼働等により、総原価は増加する見込みである。
- 2 家庭ごみ大袋(45)を6kg、プラスチック製容器包装大袋(45)を1kgとしている。
- 3 []は、有料化を実施した場合に処理原価に加算される袋製造・流通経費。他の政令市の例から〔9〕円程度と推計している。